



豊後大野市立緒方中学校学校だより

青雲の大志

令和6年1月9日

NO.25 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

3学期始業式

未来を切り拓く力と意欲を



校長式辞

新しき年の初めの初春の

今日降る雪のいや重け吉事

(あらたしき としのはじめの はつはるの
きょうふるゆきの いや しけ よごと)

■新年を迎えるといつもこの和歌を思い出します。奈良時代、万葉集の歌人、大伴家持の歌です。新年を迎えた今日、降る雪のように、よいこともたくさん積もれ、というおめでたい歌です。

■けれども、今年のお正月は、能登半島地震、羽田空港での飛行機炎上事故など、大惨事が続いており、特に被災された方を思うと、胸が苦しくなります。

この新年に私が思いを巡らせ、みなさんに伝えたいこと、たくさんありますが、今日は3つお話しし、式辞としたいと思います。

■1つめは、**当たり前**の日常に感謝しつつ、**その時々を丁寧に生き、命を輝かせてほしい**ということです。

温かいご飯が食べられる、家族や友達と笑ったり喧嘩できたりする、勉強することができる、あたたかい布団で眠ることができる、その当たり前の日常に感謝する謙虚さを忘れないこと。そして、いつ、どんな困難に直面しても、それより前の日々を後悔しないように、毎日を丁寧に、精一杯生きること考えてほしいと強く願っています。それが困難を乗り越える力にもつながると信じています。

■2つめ、日本航空の機体が炎上する映像を見た後で、乗員乗客379人全員が脱出できたというニュースを聞いたときは、奇跡だと思いました。CAの判断力は海外でも高く評価されています。

あの混乱の中での確かな判断と行動が出来たのは、一生に一回遭遇するかもわからない状況に備えて、繰り返し行われる厳しい訓練の賜物だと聞きました。

よく考え、よい判断、決断をするには、日頃から緊張感をもってしっかり学び、訓練、練習することがやはり大切なのだということを、みなさんも胸に刻んでください。

■最後に、冒頭紹介した新年を祝うおめでたい和歌を詠んだ時、大伴家持は決してハッピーではなかったということも知っておいてください。

失意の中にあっても、新年を迎えた家持は「いや重け吉事」と高らかに歌うのです。気候変動や災害、大事故、海外に目を向ければ戦争や内乱で理不尽に人権や命を脅かされている人々がたくさん存在する世の中、予測困難な未来を生きる皆さんだからこそ、**希望を失わず、「未来を切り拓く力と意欲」を高めていくことを期待しています。**

そのために、まず、いつも言っているように「気品と力強さ」を判断基準とし、楽しくて、力の付く学校づくりを、友だちと先生方と一緒に進めていきましょう。

入賞 おめでとう！

第62回大分県読書感想文コンクール
県優良賞 山浦 新太郎 さん
第62回大分県読書感想画コンクール
県優秀賞 工藤 鈴 さん

豊後大野市暮らしの中の一行詩
優秀賞 阿南 莉緒 さん
嘉藤 花 さん
宮崎 悠希 さん

